

博士後期過程に進学した動機は何ですか？

私は、高校時代から博士課程に進学したいとぼんやりと考えていました。そのきっかけは、高校時代の「課題研究」という授業です。この授業では、化学・物理・生物・地学に関する研究を1つ選択し、5人ほどのチームで1年間研究を行う授業でした。私は、地学の研究に熱中し、大学でも研究に没頭したいと思いました。実際に、大学での卒業研究を進めていくうちに、この技術を習得し、多くの人々に研究の面白さを伝えたいと強く考えるようになりました。しかし、研究を一から行い、論文としてまとめる力を養うには、大学4年間や修士2年間では、身に着けることができないと考えたため、博士後期課程へ進学しました。



博士時代の研究のことを教えてください。

私は、貝形虫(かいけいちゅう)という微小甲殻類を用いて日本沿岸域における完新世(約1万年前から現在)の古環境の復元を卒業研究や修士研究で行っていました。この貝形虫は、世界中のため池や深海まで広い水域に生息しており、これらの化石産出に基づいて採取した地域周辺の環境を推定することができます。私は、研究があまり行われていない地域でも詳細な古環境を復元できるのかについて興味を持ちました。特に、人為的影響が少ない南極地域における環境変化について解明することは「地球温暖化」に貢献できると考えました。そこで博士課程では、南極における貝形虫を用いた完新世の古環境復元を試みました。実際に山陰地域の学生で初めて南極地域観測隊として参加し、多くの試料を採取し、それらの試料を用いて過去から現在の南極の環境の評価を行いました。

現在の所属やこれからのお仕事について教えてください。

2022年3月に博士課程を修了し、4月より北海道の洞爺湖有珠山ジオパーク学術専門員として就職しました。仕事内容としては、ジオパーク地域の研究資料を集め、この地域の形成や歴史、文化などについて地域の方々や観光客に解説や情報発信することです。

また、4年に1度のジオパーク認定審査のための準備を行うことです。さらに、この7月からは、地域の幼稚園から中学生に対して科学教育普及授業を行っており、南極や地学に関する授業を行い、多くの子供たちに科学の面白さを伝えています。博士時代に学んだ「伝える相手に合わせた話し方」は、現在の仕事にとっても役に立っています。多くの人々とコミュニケーションをとることが好きな方や人前で説明することが得意な方は、ジオパークで働くことを候補に入れると視野が広がるかもしれません。



博士進学を考えている人にメッセージをお願いします。

高校生、学部生、修士課程の皆さん、進学は、今後の人生を大きく変えることが可能です。私は、博士後期課程において山陰地域の学生として初めて南極地域観測隊として南極調査へ参加することができました。このように博士後期課程では、皆さんの努力次第によって前例のない挑戦も可能です。

さらに、博士課程には様々な支援金や助成金の制度があります。私は母子家庭でしたが、大学などの支援を利用し、勉学に勤しむことができました。家計や金銭面などについて一人で考え込む回数が増え、大変な時期かもしれません。少しでも興味があれば多くの人に相談し、自分のやりたいことに挑戦することが大切です！

令和4年8月1日



総合理工学研究科博士後期課程 地球科学・地球環境コース R3 年度修了 洞爺湖有珠山ジオパーク推進協議会 佐々木聡史 (Satoshi SASAKI)